

物価高に苦しむ遺児家庭 秋のあしなが募金で支援呼びかけ 過去最多1878人を採用も、なお4割の1339人に支援届かず

10月18、19日に周南、25、26日に下関で、遺児大学生らが「後輩遺児のために」街頭募金

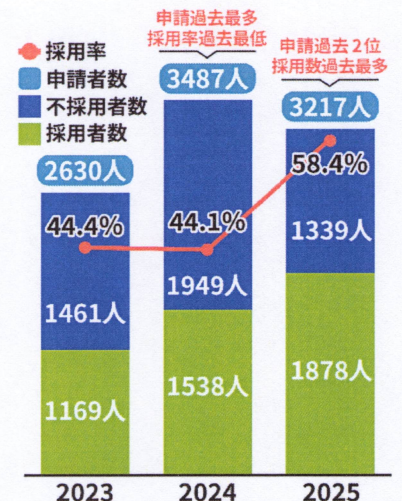
遺児や親に障がいがある子どもを支援するあしなが学生募金事務局（本部：東京都千代田区、事務局長：谷岡奈央＝熊本県立大学4年）は、10月18日から全国136か所で「第110回あしなが学生募金」を実施します。本活動は、一般財団法人あしなが育英会（本部：同、会長：村田治）の大学奨学生が中心の募金活動で、募金は全額をあしなが育英会に寄付し、日本とアフリカの遺児の進学支援に活用します。

父は僕が小学生の時に突然くも膜下出血でなくなりました。
母は介護施設でパートをしていますね、母も1度倒れ、手術もした事があるので、
体調が不安定で、働く日数も少なく収入が安定していません。
とても厳しい状況です。

（あしなが高校奨学金の申請書より抜粋）

格差や物価高などの背景からあしなが高校奨学金のニーズは高く、申請者は2023年度2630人、24年度は過去最多の3487人と増加してきました。申請者の増加に奨学資金が追いつかず、24年度の採用率は過去最低の44.1%と低迷していました。これまでの街頭募金ではこの窮状を強く発信し、支援を呼びかけてきました。

25年度の申請者は過去2番目に多い3217人で、依然として高い水準にあります。しかし、これまでの街頭募金をきっかけに多くの支援をいただけたおかげで、25年度は過去最多の1878人を奨学生として採用でき、採用率は14.3ポイント増の58.4%まで上昇しました。



あしなが高校奨学金 採用状況の推移

本事務局は、この活動で救われる遺児がいるということを強く実感しています。この歩みを止めること無く、いまだ申請者の41.6%にあたる1339人の子どもたちが、物価高に苦しみながらも不採用になっているという現状を変えるため、秋の街頭募金に臨みます。

現在本会が進めている奨学生世帯調査には、54.5%（速報値）もの保護者が過去1年間に食料を買えなかった経験があると回答しており、深刻な貧困と経済的支援の必要性が伺えます（詳細次頁）。

山口県でも、25年度は申請者23人のうち9人が不採用となっています。7月5日に急逝したあしなが運動創始者の玉井義臣の遺志も継ぎ、一人でも多くの遺児に奨学金を届けられるよう、支援を呼びかけてまいります。



2025年4月の徳山駅での街頭募金

—— 第110回あしなが学生募金 山口県実施要項 ——

＜主催＞あしなが学生募金事務局 ＜協力＞一般財団法人あしなが育英会

＜募金使途＞2分の1を日本国内の病気・災害・自死遺児と親に障がいがある子どもの奨学金、2分の1をサブサハラ・アフリカ49か国の遺児の高等教育支援費として、あしなが育英会に寄付

＜周南市＞2025年10月18日（土）、19日（日） 各日10～18時：JR徳山駅（在来線改札横）

＜下関市＞2025年10月25日（土）、26日（日） 各日12～18時：下関大丸前（1F正面玄関前）

＜街頭以外での寄付＞郵便振替口座 00140-4-187062 加入者名「あしなが学生募金事務局」にて受付

本件に関する問合せ：あしなが育英会中四国エリア担当 島田（携帯 050-5236-9506 メール shimada.h@ashinaga.org）



あしなが学生募金事務局 河野 菜乃香（山口東京理科大学4年）

私は中学2年生の時に父を亡くしました。大学に進学することを悩んだこともありましたが、そんな中でも母は大学進学を後押ししてくれ、あしなが奨学金を受けることができたおかげで、有意義な大学生を送ることができています。私は家庭環境を理由にして進学を諦めようとしている後輩遺児達が、私と同じように夢を追いかけて続けることができるよう、大学生活を通してこの活動に取り組んできました。私にとっては最後となるこの秋の街頭募金も、全力で臨みます。

あしなが高校奨学金*の採用状況（前頁のグラフもあわせてご覧ください）

		2023年度	2024年度	2025年度		2023年度	2024年度	2025年度
申請者数	全国	2630人	3487人	3217人	山口県	22人	26人	23人
採用者数		1169人	1538人	1878人		11人	13人	14人
採用率		44.4%	44.1%	58.4%		50.0%	50.0%	60.9%

*病気・災害・自死遺児（交通事故以外）で親を亡くした、または親に障がいがある高校生が対象。月額3万円を給付。

あしなが育英会最新調査 ―保護者の2人に1人が食料を買えない、3人に1人が公共料金等滞納の経験あり

あしなが育英会は現在、東京都立大学子ども・若者貧困研究センター（阿部彩センター長）と共同で、高校奨学生3487世帯を対象にした生活実態調査を進めています。速報値*ではありますが、54.5%もの保護者が過去1年間に食料を買えなかった経験があった、33.8%の保護者が過去1年間に公共料金や家賃、税金などを滞納した経験があったと回答しています。奨学生世帯の深刻な貧困と、経済的支援の必要性が伺えます。

*オンライン回答と郵送回答のうち、オンライン回答1447件のみを分析。郵送回答は集計中。調査結果は2025年11月下旬に公表予定。

あしなが学生募金事務局について

あしなが育英会の大学奨学生を中心に組織される学生団体。1970年以来、毎年4月と10月に全国で遺児の奨学金を募る街頭募金を実施。当初は交通遺児を支援していたが、時代とともに支援対象を広げ、現在では病気・災害・自死遺児（交通遺児以外）と親に障がいがある子ども、そしてサブサハラ・アフリカの遺児を支援している。これまでに122億円のご寄付が寄せられ、遺児の進学の夢を後押ししてきた。

本部：東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館本館4階 事務局長：谷岡奈央（熊本県立大学4年）

【実績報告】

前回第109回募金（街頭募金は2025年4月実施。振込等によるご寄付は25年2月～7月に受付）では、8710万1246円の浄財を頂戴しました。うち山口県では89万3706円のご寄付が集まりました。

【山口県での活動】

山口県では現在6人の学生メンバーが、街頭募金ボランティアの募集や警察への道路使用許可の申請、募金箱などの資材の用意といった事前準備を進めています。また、4月と10月の街頭募金だけでなく、高校や企業での遺児の現状に関する出前授業や、あしなが育英会が主催する高校奨学生のサマーキャンプへのリーダーとしての参加など、年間を通じて遺児支援活動に取り組んでいます。



下関大丸前での街頭募金（2025年4月）

山口県の報道機関のみなさま

拝啓

仲秋の候、貴社ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。私、親を亡くした子どもを支援する「あしなが学生募金事務局」のメンバーで、山陽小野田市立山口東京理科大学4年の河野 菜乃香と申します。10月にJR徳山駅と下関大丸前で「行方街頭募金」の取材をお願いしたく、ペンをとらせていただきました。

あしなが学生募金は、自らも奨学金を受けている遺児学生が中心となり「後輩遺児たちにも奨学金を届けよう」と年に2回実施している活動です。私は13歳のときに父親を亡くしましたが、あしなが奨学金を受けることができたおかげで、いま大学に通うことができます。かつての自分と同じように夢を追いつづけられる遺児学生が1人でも増えるよう、この活動に取り組んでいます。

近年物価高の影響が大きく、奨学金を希望しても受けられない子どもが多くなります。そんな子どもたちの進学を守るために、私は仲間たちと募金の準備を進めています。

一人でも多くの遺児に支援を届けるためには、一人でも多くの人にこの活動を知ってもらう必要があります。ぜひとも取材・報道をしていただけたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

敬具

あしなが学生募金事務局

河野 菜乃香